

タイ国仏教寺院における高齢者福祉活動に関する
調査研究
－ルーイ県プーカデン郡の事例－

酒 井 出

(西九州大学)

(平成15年10月31日受理)

Rural Development and Care for the Aged in the Northeastern Part of Thailand

Izuru SAKAI

(*Nishikyusyu University*)

(Accepted October 31, 2003)

Abstract

A report on the social work activities by the elderly at Buddhist temples in Thailand

The purpose of this research is to find how the social work activities are operated at Buddhist temples in PHUKRADUENG county of LOEI prefecture, Thailand.

The research has led to the findings which social work activities at Buddhist temples are operated by the organization of the elderly. Moreover, all members of this organization are also the members of the funeral reciprocal support association. The main activities of these elderly organizations are conservation of traditional Buddhist festival, social participation of the elderly, promotion of health, and discovery or creation of something to live for.

Key words : health promotion 健康増進
social work activities 福祉活動
Buddhist temples 仏教寺院
organization of the elderly 高齢者クラブ
funeral reciprocal support association 葬式組合

1. はじめに

(1) 先行研究

これまで、タイ国における高齢者福祉についての日本人研究者による研究としては、1994年に高嶺豊によって行われたものがある¹⁾。その内容は、タイの社会福祉の沿革、社会保障制度、社会福祉サービス、児童福祉、女性福祉、高齢者福祉、障害者福祉、少数民族、社会福祉教育の概要等が紹介されているものであった。高齢者福祉については、施設サービス、地域福祉サービス、老人クラブの現状等についてタイ全国レベルの文献・統計資料をもとに記述されていた。

1995年、荻原康生²⁾は、タイ国立タマサート大学社会福祉学部のデチャ・スングワン、ウーティサン・タンチャイ、タイ労働福祉省社会福祉局のプンスク・チョティガパニト、ドウアンドウアン・オラファンらタイ人研究者と共同でタイの社会福祉について記述している。ここでは、タイの社会経済的変化、社会的弱者への影響、社会福祉政策、児童福祉、障害者福祉の現状について述べている。さらに、仏教文化のイデオロギー及びタイの社会階層構造における援助者－被援助者の関係が現代の民間および公的福祉に与えているとの指摘がなされている。

1997年に松村祥子³⁾は、ノンタブリ県コクレット島にあるターナム村の村民福祉活動について紹介している。コクレット島では、1980年以降農村振興プログラムとして村民自主運営の福祉活動が行われるようになったこと。具体的活動として保育所の運営、村道の清掃、障害者・高齢者の世話、住民のニーズを行政につなぐなど多様な活動が行われていることが報告されている。

1998年、荻原康生⁴⁾は、上記の1995年の論文同様にタイの社会福祉の概要について報告している。そして、この論文では、高齢者福祉について施設内処遇、地域内処遇に分けて記述がなされていた。さらにタイ国においては、国立の老人ホームも地域内処遇を目的とする高齢者福祉センターも全国の主要都市にのみあることが記述されている。また、公的サービスの不足を補うため各県にある仏教寺院に高齢者のケアを依頼していることが書かれていた。

また、荻原康生⁵⁾は、仲村優一・阿部志郎・一番ヶ瀬康子編『世界の社会福祉年鑑2001』旬報社2001年の「タイ」において仏教寺院で行われている高齢者のケアについて1994年から遺棄された高齢者を保護するシェルターが全国の仏教寺院362ヶ所に設置されたこと。さらに1999年から全国200ヶ所の仏教寺院に高齢者センターを設置して地域内の高齢者の福祉活動（健康増進活動等）を実施していることが報告されている。

これらのタイの高齢者福祉に関する業績は、タイの高齢者福祉の概要を紹介したもので、松村の論文以外、具

体的な地域社会を事例として福祉活動の現状について調査が行われた訳ではない。しかし、タイの社会福祉制度、高齢者福祉の概要を理解するうえで大いに参考になった。また、仏教寺院が遺棄された高齢者を保護するシェルターや地域内の高齢者の福祉活動（健康増進活動等）を実施していることについては大いに関心もたれた。

馬場雄司⁶⁾は、タイ北部ナーン県と日本の三重県を事例として「近代的福祉システムと伝統的相互扶助－タイと日本の比較」というテーマでタイ国と日本の老人クラブについて比較考察を行っている。ナーン県の老人クラブについては、県、郡、市区、村レベルの老人クラブの現状について詳細な調査研究結果を報告している。区および村レベルの活動については、ナーン県ターワンパー郡パーカー区を事例として、各村の老人クラブ活動については会長、会員より聞き取り調査をおこない、その調査結果について報告している。この調査研究のまとめとして馬場は、以下のようなことを指摘している。

- 1) 市部では、住民ボランティアも参加して、太極拳などによる健康づくり、フランスの老人向けスポーツであるペトーンの普及活動等が行われ活発な活動が行われている。一方、農村部では、年に数回の保健所医師による講習会以外には活動を行う村が少ない。
- 2) 農村部において活動が活発な地域は、地域文化の伝承活動や定期的な健康診断、薬草などの奨励が行われている。こうした成果は、指導者の資質、病院・衛生局・保健所職員の関わり方などによる。
- 3) パーカー区高齢者会の会長は、ターワンパー郡の住民組織ネットワークの副リーダーでもあり、ナーン市にもあるNGOムニティ・バック・ムアンナーンの会計も兼ねており環境保護活動の面でも名高い。このような有能な指導者の存在は、高齢者クラブなど地域の活動を活発にする条件である。

筆者は、1996年「タイ国における農村開発と高齢者福祉－タイ国東北部ルーイ県の事例を中心に」⁷⁾において農村開発における地域社会の状況の変化と人口の高齢化が進行している現状において事例調査地ルーイ県プーア郡ノンボア村ノン・スーア・クラン区における高齢者福祉の現状について考察した。その結果、事例地区内において地区組織によって行われていた福祉活動は、貧困者のリストづくり、60歳以上の高齢者の医療費を無料にする程度で訪問看護、家事援助、食事等の公的サービスは、行われていなかった。高齢者の介護はもっぱら同・別居している子供たち、すなわち「伝統的家族」によっておこなわれているのが現状であった。

また、筆者は、「タイ国における高齢者の生活と介護にかんする事例－タイ東北部ルーイ県の事例を中心に」⁸⁾においてプーア郡ノンボア村ノン・スーア・クラ

ン区における高齢者の生活と介護の実態について高齢者への聞き取り調査および20歳以上60歳未満の全地区住民177人に対して意識調査を行った結果について報告をした。その結果、ノン・スーア・クラン区において高齢者の介護は、もっぱら同・別居している子供達を中心に血縁または姻戚関係によって行い、ホームヘルパー等の公的サービスを利用することを望むものは少なかった。また、高齢者の生活は、「スポーツ・レクリエーション」等の公的サービスを利用した余暇生活を望むものは少なく、「宗教活動」や地区内における「奉仕活動」を望むものが多かった。

(2) 本研究の目的と方法

以上の先行研究の結果より、タイ国における高齢者福祉サービスは、施設サービスも在宅サービスも主要都市を除きまだ充分に行われていないと考えられる。しかしそのような状況の中で、タイ国社会福祉局は、タイ全国の寺院の協力を得て、遺棄された高齢者を保護するシェルターを寺院内に設置した。さらに、寺院のなかに高齢者センターを設置して、地域社会内の高齢者の福祉活動（健康増進活動等）を実施している事実には、大いに興味を持たれた。そこで、国立の老人ホームや高齢者福祉センターが県内に存在しない地方都市の仏教寺院で行われている福祉活動を中心に高齢者福祉の現状について調査研究した結果を報告する。

具体的調査目的は、1) 仏教寺院で行われている具体的高齢者福祉活動の現状把握 2) 高齢者福祉活動が行われている仏教寺院所在地の地区で行われている高齢者福祉活動等である。

独居高齢者に対して支給されている援助金の額が最も多いタイ東北部の中から、筆者が長年調査研究をしてきたルーイ県を調査地とした。また、ルーイ県内で仏教寺院において福祉活動を行なっている寺院が存在するプーカデン郡で調査を実施した。

2. タイ高齢者福祉サービスの概要

タイ政府では、1953年から高齢者のために、さまざまな老人施設でのサービスをおこなっている。社会福祉局では、経済的に恵まれない高齢者のための無料老人ホームを全国に設置している。そこでは、①生活必須条件の整備、②レクリエーションと宗教活動、③ソーシャルワーク、④疾病の治療、⑤心理療法、⑥作業療法、⑦葬祭扶助等のサービスが供給されている。しかし、日本のように全国のほとんどの市町村に設置されている段階に至っているのではなく、2003年3月現在、全国の主要都市（例えば、首都バンコク、北部チェンマイ、東北部ナコンラチャシマー、南部ヤラー、プーケット）等に、合計20箇所を設置されているだけである。タイ東北部の場合、高齢者のための無料老人ホームは、ナコンラチャシマー

県に2施設（それぞれ192人、139人が入所）、ブリラム県に1施設（84人入所）、マハーサラカム県に1施設（132人入所）がある。

また、在宅福祉サービスの拠点として、高齢者社会サービスセンターが全国に合計17箇所設置されている。これも全国の各県にあるのではなく、主要都市だけである。この高齢者社会サービスセンターでは、検診、理学・作業療法、相談助言やスポーツ・レクリエーション・宗教活動や祭りへの参加などのサービスがおこなわれている。このような所内でのサービスの他に、地域巡回班を結成して地域内に出向き、カウンセリング、医療および情報提供を行っている。さらに、家族の問題を抱えたり、身寄りのない高齢者を緊急一時保護するシェルターも運営している。タイ東北部の主要都市であるナコンラチャシマー県に2つ、コンケン県に一つ高齢者社会サービスセンターがある。

このうちナコンラチャシマー県のポークラン高齢者社会サービスセンターとコンケン県のコンケン高齢者社会サービスセンターでは、地域巡回と身寄りのない高齢者を緊急一時保護するシェルターも運営している。ナコンラチャシマー県、コンケン県は、60歳以上の高齢者人口がそれぞれ、135,172人、97,213人と東北部19県中、1位と2位の東北部の中でも高齢化のすすんでいる県である。

さらに、社会福祉局では、1994年からタイ全国の仏教寺院の協力を得て、独居状態になった障害高齢者を保護するシェルターを寺院内に設置した。さらに、1999年からは、寺院内に高齢者センターを設置し高齢者の福祉活動（健康増進活動等）を実施している。2003年現在、全国に200箇所設置されている。したがってこれらの寺院は、全国の各県（76県）に平均して2ないし3設置されることになる。これらの施設の運営資金として日本の宮沢基金から、運営資金として年間総額4,300万バーツ、そのうち健康増進活動のための器具購入費として年間14万バーツが支出されている。事例調査地のルーイ県には、ムアン・ルーイ（県庁所在地）、ダンサーイ郡、プーカデン郡にある3つの仏教寺院において福祉活動がおこなわれていた。

この他に、社会福祉局では、収入がなく自活している貧困な独居高齢者に対して月額300バーツ（1バーツは約3.0円）の援助金を支給している。その総支給額は、1999年において1,101,600,000バーツであった。また、ここで特に注目すべきことは、東北部においてその支給額が486,165,000バーツと他の地域より群を抜いて多いことであった。これは、東北部がタイ国における最貧困地域であり、バンコクその他の大都市に出稼ぎのため、多数の人々が流出しているからである。

3. ルーイ県の概況

ルーイ県は、タイ国東北部に位置する19県の内の1つの県である。タイ東北部は、タイ全土の中でも最も遅れて開発された地方として知られている。すなわちタイ東北部一帯は、かつては一度も王権的性格を備えた巨大な政権が存在せず、長い間支配者によって見捨てられ、放置されてきたため開発が遅れた地方であった。そのため中央（バンコク）権力も中央文化のタイ東北部への本格的浸透は、1900年におけるバンコク～コーラート（東北部）間鉄道開通とその後の延長、1921年の初等教育法の施行による学校建設なども1900年以降のことであった。ルーイ県の県庁の所在地ルーイ（Loei）は、タイ国の首都バンコクから558km（バスで約8時間）ほどのところにある（図1参照）。タイ東北部最北の県である。ルーイ県

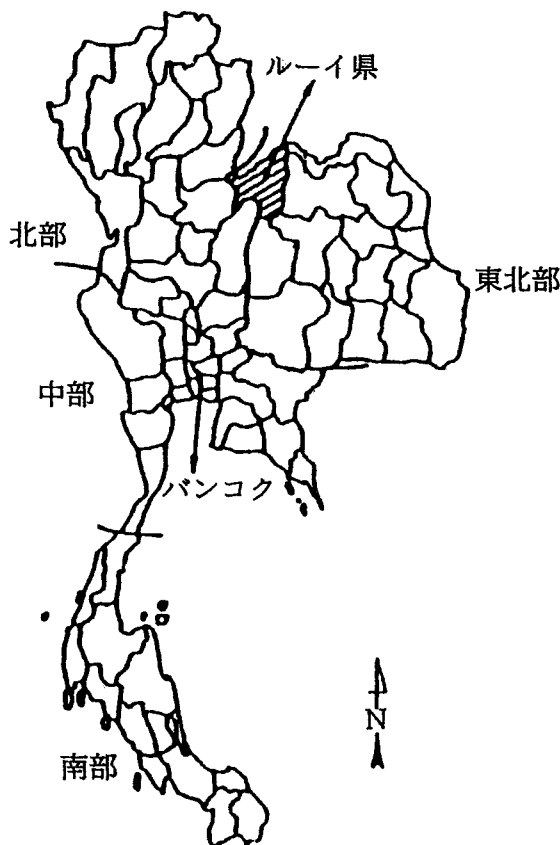


図1 イール県位置地図

の北側は、ラオス人民民主主義共和国と境界を接し、東側は、ウドンタニ県及びノン・カイ県と、南部はコンケン県及びペチャブーン県と、そして西側は、ピサヌロークの各県と境界を接している。標高約1500mの山々に囲まれ、谷あいメコン川の支流がながれている。19世紀中葉ラーマ4世の命によって町が建設され、1993年に県になり現在に至っている。

1990年のセンサスでは、ルーイ県は、9つの郡（アンプー）と3つの副郡（ギンアンプー）、85の行政村（タンボン）と746の行政区（ムーバーン）に区分されている。ルーイ県の面積は11286.6平方kmで東北タイ諸県では五

番目の広さであるが、人口は580,319人、世帯数135,044、一世帯当たり4.30人（1994年）で二番目に人口が少なく、したがって人口密度は、1平方m当たり51人で東北タイ19県のうち最も低い⁹⁾。

1990年ルーイ県の人口の年齢別構成は、0-14歳の若年人口は、県人口の約30.1%を占めていた。15-59歳の生産年齢人口は約63.4%を占め、65歳以上の高齢者人口は、6.5%を占めていた。また、県人口の約95.7%が非都市地域に居住し、都市地域の人口は、僅かに4.3%にすぎなかった。1985年から1990年の5年間に他県から1,768人（県人口の約3.3%）が移住してきた。都市地域への他県からの移住人口は都市地域人口の9.6%であったのに対し、非都市地域への他県からのそれは、約3%にすぎなかった（以上「Cangwat Loei 1990 Population and Housing Census」による）。1999年のルーイ県における60歳以上高齢者の数は、4,141人で東北タイ19県の中で13位、身寄りのない高齢者の数は、1,720人で17位であった。

また耕地率（総面積比）も東北部諸県の中で最も低く、未耕地が比較的多い。また稲作農家一戸当たり生産量が消費量の1.2倍に過ぎず、まだ商品化率も低いままである。その他産業としては、観光業、絹織物、金、マンガン、鉄などの鉱工業などがある。

4. プーカデン郡の概況

プーカデン郡の郡庁は、ルーイ県の県庁の所在地から南に78kmほどのところにある（図2参照）。多くの美しい山々に囲まれ、国立公園にも指定されており、タイ国内から多くの観光客が訪れる。プーカデン郡の北側には、ノン・ヒン副郡とパーカオ郡、東側は、コンケン県、南部はコンケン県、ペチャブーン県そして西側は、ペチャブーン県、ルーイ県のプーアン郡と境界を接している。プーカデン郡の気温は、夏季の4-5月は40℃まであがるが、冬季の11月から1月は、20℃から10℃までさがり、タイ国内のなかでは、寒い地域に属する。

プーカデン郡の主な農作物は、もち米、とうもろこし、大豆、キャッサバ、マンゴー等である。商業施設としては、郡庁の周辺にガソリンスタンド4、銀行1、リゾート（宿泊施設）4、娯楽施設7、農業協同組合3、小売店（食堂、雑貨等）25がある。

プーカデン郡は、4つの行政村（タンボン）と53の行政区（ムーバーン）と1都市地域（テサーバーン）に区分されている。プーカデン郡の面積は1,006平方kmで、人口は35,849人、男性は、18,904人、女性は、17,540人、人口密度は、1平方m当たり57人であった。1995年の「Statistical Report of Changwat」. National Statistical Office of the Prime Minister, Thailand, 1995.」によって人口の年齢別構成をみると、0-14歳の若年人口は、



図2 プーカデン郡位置図

14,535人で27.1%、15-59歳の生産年齢人口は35,548人で66.3%、60歳以上の高齢者人口は、3,516人で6.6%を占めていた。また、2000年から2003年の人口増加率は、0.15人と減少している。

5. プーカデン・タンボン（行政区）の概況

シープーカデン寺院は、郡関係の施設や商店が多い郡の中心部の人口密集地域にあるタンボンにあり、テサバーン・タンボンに指定されている地域にある(図3参照)。なおテサバーンとは、1953年に公布されたテサバーン法によって設置が決められた人口密集地域に法人資格が与えられ行政単位である。テサバーンには、人口規模と権限によって、テサバーン・ナコーン（人口5万以上の特別市）、テサバーン・ムアン（県庁所在地または人口1万以上の市地域）とテサバーン・タンボン（郡内の中心地域等準市）の三種類がある。テサバーン・タンボンには、12人の任期5年の議員からなる市議会をもち、議員は、

住民の選挙によって選ばれる。市長と市会議長は、市会議議員の互選によって候補が選ばれ、最終的には県知事によって任命される。市の予算の約40%が中央政府からの交付金で、残りの60%が税収となっている。

プーカデン郡にあるテサバーン・タンボンの範囲には、プーカデン・タンボンとバナカカオ・タンボンが含まれている。シープーカデン寺院は、プーカデン・タンボンの中にある。郡庁、警察署、病院、小学校等の公共機関がある地域の北側のプーカデン・タンボンの第8地区にある。プーカデン・タンボン内の世帯数は、2,229、人口は、8,273人である。人口の年齢別構成は、0-17歳が1,909人で24.1%、18-60歳が5,508人で66.6%、61歳以上の高齢者人口は、856人で10.3%を占めていた。このようにプーカデン・タンボンの高齢人口比率は、統計の出しかたが若干県、郡と異なるので単純に比較できないが、ルーイ県やプーカデン郡全体の高齢者人口比率よりかなり高い。

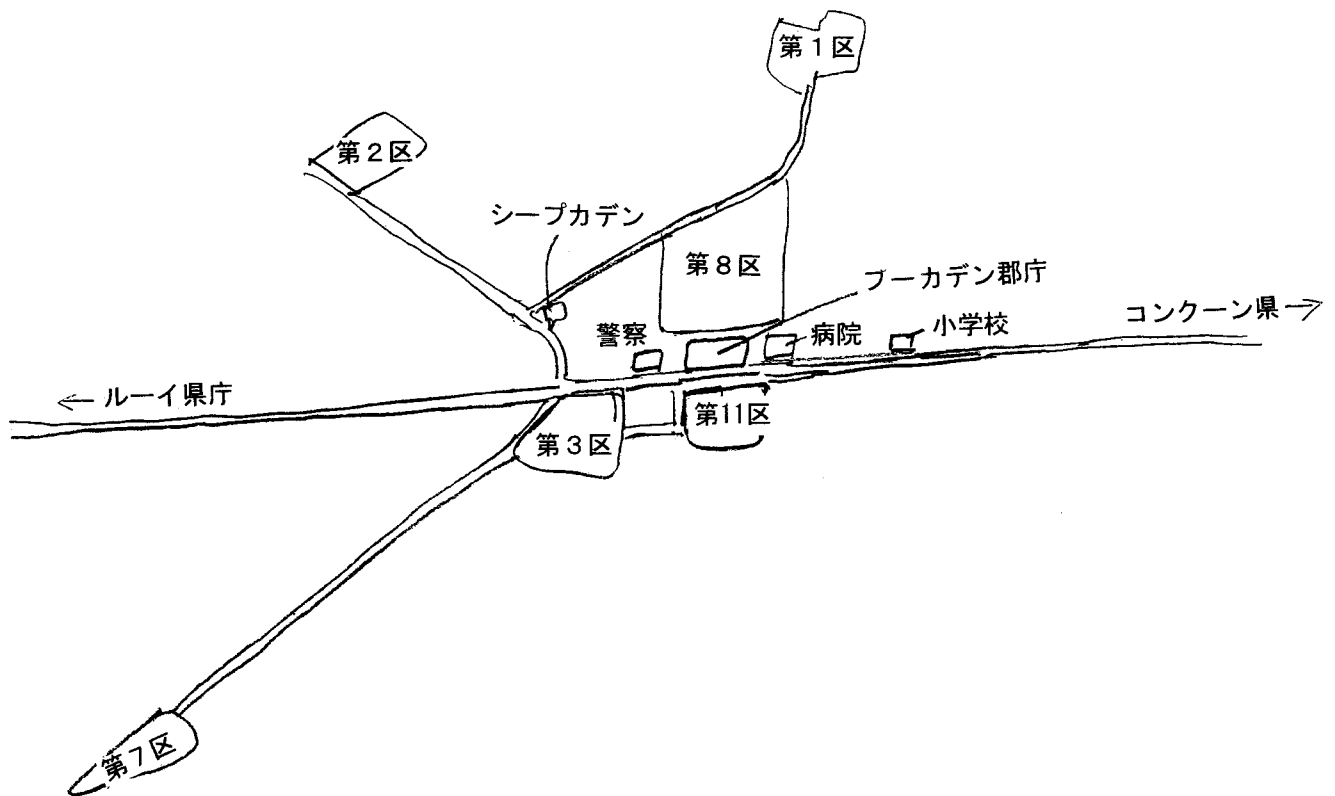


図3 プーカデン郡位置図

6. シーブーカデン寺院における福祉活動

このシーブーカデン寺院では、寺院内に高齢者センターを設置し、高齢者の福祉活動を行っている。この寺院における福祉活動は、1997年より老人クラブとしてその活動が始められた。登録されている高齢者は、60歳以上のプーカデン・タンボンに居住する460名で、葬式組合の会員により構成されている（これは、他のルーイ県内の福祉活動を行っている寺院と共通している。）。この葬式組合のうちには、全国的にみれば、1960年代より組織された地域もあった。この組合が組織される範囲は、ムーバーン（地区）やタンボンの範囲であった。また、1972年に革命団布告第287号によって登録が義務づけられた。1974年には、葬式援助法を定めて、葬式組合の管理運営に対する指導を強めた。葬式組合が組織された理由は、生産生活面で現金経済の比重が急増し、親戚の少ない世帯などが十分な香典を得られず、葬式の費用の工面に苦勞することが多くなったためといわれている。葬式組合をムーバーンの範囲で組織するかタンボンの範囲で組織するかは、その範囲でどれだけの資金が集められるか、また葬式にどのくらいの費用がかかるかによるといわれている。プーカデン・タンボンのある範囲は、郡の中心に位置しており、葬式の費用も多くかかるのでタンボンの範囲で葬式組合が組織されたものと思われる。

老人クラブの役員会は、会長・副会長と15人の委員で

構成されており、定年退職した元小学校の教員、元軍人、元警察官等が役員となっている。会長は、元警察官、副会長（書記）は、元郡の役人である。役員会は、月1回行われている。会議の内容は、・郡や病院からのお知らせ（死亡者の通知、会員の登録についての規則、会員が行わなければならない活動についての通知等）、・死亡した人の葬式の手伝い、・病院での月1回の定期健康診断等である。この会には、郡病院の担当官である看護師が必ず出席する。病院での月1回の定期健康診断については、その参加者があまり多くないこと等が議題となっている。

会の収入は、入会金150パーツと、誰かが亡くなる毎に集められる一人50パーツづつが主な財源となっている。

現在会員により行われている活動は、①屋根に敷く草を植えたり、薬草を栽培すること、②ワンプラ¹⁰⁾の日に僧侶の説教を聞くこと、③毎年定期的に行われている仏教行事への参加、・寺院の新築、修理等となっている。今回の調査時にも寺院内では、10人前後の会員が僧侶の住む僧房の修理を行っていた。

7. 第8区の地区組織と福祉活動

第8区には、シーブーカデン寺院がある。世帯数は、387世帯、人口1,013人である。

地区内には、商業に従事している人は、5人だけで、ほとんどの人は、農業に従事している。地区内でとれる

農作物は、もち米、とうもろこし、タピオカ、マムアン、マッカム、ラムヤイ等の果物である。マムアン、マッカム、ラムヤイ等は、県外のコンケンやチュンペーに売りに行っている。地区内の世帯の年平均収入は、30,000 バーツ(約90,000円)、一人当たりの年平均収入は、12,000 バーツ(約36,000円)である。また、農閑期には、バンコクに出稼ぎに行く人もいる。

地区委員会は、会長1人、副会長1人、会計1人、書記1人とその他役員11人の合計15人で構成されている。また、地区内には、婦人会、青年会、貯金グループ、ボランティアグループの四つのグループがある。

地区内には、2003年現在、60歳以上の高齢者が、197人おり、そのうち老人クラブに加入している高齢者は、187人いる。また、身寄りがない高齢者は、22人おり、月300バーツ(900円)を支給されている。これら的高齢者が病気にかかった場合は、近隣の孫や親戚が世話をし、病院につれていったりもしている。地区委員会としては、寒期に服や布を給付したりしている。また、その他に、土地がなく、農業も行えず、貧困のため、月300バーツを郡から支給されている人が一人いた。

8. まとめ

タイ国においては、高齢者人口の多い主要都市がある県にのみ老人施設や、在宅サービスセンターがあり、他は、仏教寺院で高齢者の福祉活動が行われていた。本研究の目的は、このような仏教寺院での福祉活動の現状を調査研究することであった。

高齢者の福祉活動を行っている仏教寺院のある場所は、高齢者人口の多い郡内の中心地域(テサバーン・タンボン)にあった。そしてその地域(タンボン)内に居住する高齢者が会員となって老人クラブとして活動をおこなっていた。

この組織は、行政による上からの指導により作られたものであり、行政担当者(郡病院の看護師)の指導のもとに、元公的機関で働いていた人が役員となり運営されていた。主な活動内容は、寺院の維持・管理、寺院における伝統的な仏教行事の維持、健康診断等が主な活動となっていた。むしろ高齢者の社会参加、健康増進、生きがい対策が主となっており、身寄りのない高齢者の要擁護は行っていなかった。また、葬式組合の活動が大きな役割を占めていた。1970年頃から盛んに組織化された葬式組合をこの老人クラブがになうようになった背景には、やはり生産生活面で現金経済の比重が急増し、葬式の費用の工面がこの地域での重要な問題になっているからであろうと推定される。

高齢者福祉活動が行われている仏教寺院所在地の地区(ムバーン)で行われている高齢者福祉活動は、身寄りのない高齢者のリストづくりと郡庁より支給される月300

バーツを渡すことである。またこれら的高齢者が病気などの緊急時には、近隣の孫や親戚が世話をしており、地域における血縁的相互扶助がまだ残っていた。このような地区レベルでの福祉活動は、筆者が前述したルーイ県プルーア郡で調査した結果とほぼ同じであった。したがって寺院における高齢者の援護はそれほど必要としないようである。

以上のように現在仏教寺院で行なわれている福祉活動は、高齢者の仏教信仰にもとづいた社会参加、生きがい対策、健康増進、葬式組合の運営等と住民が当面必要と考えている活動が行われていた。しかし、現在でも農閑期にバンコク等に出稼ぎに行く人々がおり、今後は、高齢者の社会参加、健康増進、生きがい対策だけでなく、独居高齢者の要擁護活動が必要なケースも生じてくると考えられる。

今後の課題として、前述の馬場が紹介していた老人クラブ、さらにその全国組織であるタイ高齢者協議会との関連、シープーカデン寺院で行われている福祉活動に関する意識調査が必要と考えられる。

9. 引用・参考文献

- 1) 高嶺豊「2タイ」小島蓉子・岡田徹編『世界の社会福祉』学苑社 1994年 pp.37-38
- 2) 荻原康生、デチャ・スングワン、ウーティサン・タンチャイ、ブンスク・チョティガ パニト、ドウアノウアン・オラファン「タイの社会福祉」荻原康生編『アジアの社会福祉』中央法規 1995年 pp.27-81
- 3) 松村祥子「家族、地域と社会福祉」松村祥子編『世界の社会福祉』放送大学教育振興会 1997年 p.179
- 4) 荻原康生「タイの社会福祉」仲村優一・一番ヶ瀬康子編『世界の社会福祉3 アジア』旬報社 1998年 pp.53-102
- 5) 荻原康生「タイ」仲村優一・阿部志郎・一番ヶ瀬康子編『世界の社会福祉年鑑2001』旬報社 2001年 pp.417-431
- 6) 馬場雄司「近代的福祉システムと伝統的相互扶助—タイと日本の比較」文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書 2001年 pp.1-41
- 7) 酒井 出「タイ国における農村開発と高齢者福祉—タイ国東北部ルーイ県の事例を中心に」永原学園・西九州大学・佐賀短期大学 紀要第27号 1996年 pp.55-66
- 8) 酒井 出「タイ国における高齢者の生活と介護にかんする事例—タイ東北部ルーイ県の事例を中心に」『九州社会福祉研究』第23号 1998年 pp.75-88
- 9) ルーイ県関連人口・面積・タンボン数及びムバーン数等は、「Stasistical Report of Changwat".

National Statistical Office of the Prime Minister,
Thailand, 1995, による。

- 10) 在家信者が1ヶ月に4回、陰暦の8日、15日、23日、
月末の日に朝から寺に詣で、僧の説法を聴く。普段
の生活で破ってしまった戒めについて反省し、新た
な戒めを受ける。僧に日用品を寄進するなど徳を積
むことも行われる。